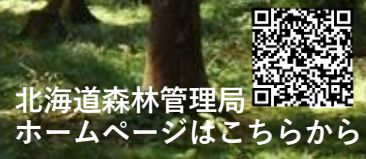


令和8年度 北海道森林管理局 重点取組事項



【はじめに】

極端な猛暑や大雨など、気候変動に伴い、地球温暖化防止や国土の保全・水源の涵養といった森林の機能への関心が高まっています。また、生物多様性の保全や文化の伝承・振興など、森林には様々な機能が求められています。これらの森林の公益的機能発揮のためには、「伐って、使って、植えて、育てる」という循環を確立しつつ、森林の整備・保全を進めていく必要があります。

このため、北海道森林管理局では、生産性の向上と省力化を図りつつ、森林の整備・保全を適切に進めていくとともに、林業・木材産業、また、地域の振興にも貢献できるよう、これらを通じた木材の安定供給、民有林への技術の普及、森林病虫獣害対策、アイヌ文化の振興などに重点的に取り組みます。さらに、これらの取組状況はSNS等も活用し、積極的に発信します。

【重視すべき機能に応じた森林の整備と保全】

これまでの森林整備の結果、人工林の資源が充実し公益的機能も増進しています。

林業適地の人工林では、高性能林業機械等による効率的な施業を実施し、木材の安定供給や再造林の着実な実施を進め、これらの成果の民有林への普及等に貢献します。その際に、複層状態の人工林の整備や小面積・モザイク配置に留意した施業を進め、公益的機能の高度な発揮に努めます。

条件が不利な奥地の人工林では、天然力を生かしながら針広混交林化への誘導を推進していきます。

人工林の主伐に際しては、生物多様性の保全の観点から、人工林に侵入した広葉樹などの天然木は積極的に保残していくなど「保持林業」に取り組みます。

【安全・安心なくらしの確保】

林野火災発生時に迅速に対応できるよう北海道及び市町村と連携し全道各地で消火訓練を実施します。



地震などによる大規模災害を想定し、職員による情報収集、応急活動などの訓練を実施し、地域への情報提供・支援の迅速化に努めます。

山地災害危険地区などの緊要度の高いエリアを優先に、国土保全機能の強化に資する治山事業を着実に推進します。

調査・施工・検査のプロセスにおいてICTの活用や新技術の導入を推進し、省力化・軽労化の実現と工期短縮を図り、事業の効率化と安全性向上に取り組みます。

【「新しい林業」の推進】

伐採から再造林・保育までの収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現、担い手の確保に向けて、生産性の向上と省力化が必要です。

このため、丸太生産の各工程の進捗を記録・解析による低い工程の「見える化」、針葉樹低質材の層積検知による省力化により、生産性向上に取り組みます。また、地拵えの大型林業機械の活用や低密度植栽を推進し、その後の造林作業に機械を活用できる仕様とする事業地の拡大に取り組みます。



【道産材の安定供給】

運転手不足などにより原木輸送に支障が生じたり、外国産広葉樹丸太の輸入が困難となる中、道産材の安定供給を進めるため、原木の輸送効率化や協調出荷による民有林材の販路拡大を図るため中間土場（ストックヤード）の新たな設置に向けた環境整備を進めます。



施業を通じて生産される広葉樹は、需要ニーズを踏まえた採材・仕分けを行い、銘木市などで積極的に販売します。

【森林病虫獣害対策】

エゾシカによる森林被害の軽減に向け、捕獲事業の強化や捕獲向上のための銃猟区域の強化に取り組めます。

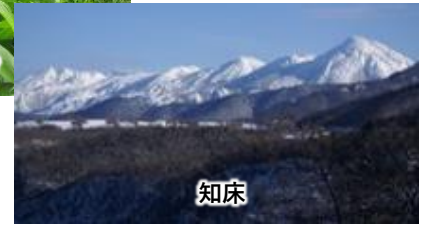
ヒグマ被害防止のため、新たに緩衝帯の整備のほか、林業従事者の安全確保の徹底、出没情報や捕獲場所の提供強化、山の実なり調査などに取り組めます。



ナラ枯れ被害拡大防止に向け、被害の早期発見・特定及び防除等に取り組めます。

【優れた自然環境の保全】

生物多様性を保全していく上で重要な箇所を引き続き保護林に設定し、希少な野生生物などが生息・生育していけるよう厳格な保護管理に取り組めます。



【アイヌ文化の振興、適時・的確な情報発信】

アイヌ文化を象徴する北海道古来の森林の保全・再生に地域や関係機関と協働・連携して取り組みます。



アイヌ文化の振興・普及に向け、地元自治体などの要望を踏まえた森林づくりや林産物の供給などを行います。



【最後に】

北海道森林管理局では、これらの取組のほか、様々な事業の実施を通じて、CO₂ 森林吸収源対策や生物多様性の保全の推進、さらには、持続可能な地域社会の実現に向け取り組んでまいります。

また、参加者を公募し実施する現地見学会や森林ふれあいイベントの開催を各種予定しているほか、森林・林業普及のための様々なコンテンツの発信を予定しております。

詳しくは、北海道森林管理局ホームページをご覧ください。